

グループ討議 50分

【学習のねらい】

- ・一見正しいと思われるような言葉や文章の中に差別や偏見があることに気づく。
- ・痴呆を特別扱いするのではなく、誰にでも起こりうる病気であることに気づく。

【準備するもの】

- ・メモ用紙（はがき程度の大きさ）、筆記用具、
- ・痴呆について識者への講演依頼（できない場合は P79 の資料を活用する）

【進め方】

- (1) 「投書1」をゆっくり大きな声で2回ぐらい読み上げる。
- (2) メモ用紙を配布し、感じたことを簡単にメモ書きしてもらう。
- (3) 一斉に歩き回って、似たような意見の人を見つけて、4人で1グループをつくる。
- (4) もう一度「投書1」を読み上げ、グループごとに話し合う。(約5分)
- (5) 「投書2」を配布し、それぞれのグループで感じたことを話し合う。(約5分)
- (6) グループごとに、「投書1」「投書2」を読んで話し合ったこと、発見したことを発表する。(1グループ約1分以内)
- (7) 痴呆について勉強する。(講演を依頼する。または、資料の読み合わせをする。)

【留意点】

- (1) 投書については、「実際に地方新聞の投書欄に掲載されたものを参考に、多少手を加えたもの」であることをはじめに言う。
- (2) グループ作りについて…4人一組になったところから座る。誰ともいっしょにならなかった人については、残った人同士でグループになる。
- (3) 講師を活用した学習会では、講演時間は30分程度にとどめ、できる限り質問や討議の時間を多くとる。講師には、最寄りのグループや宅老所の介護主任が適任である。

投書1

思いやりの心をもって行動を

わたしの亡くなった父は、困った人を見れば何事につけても助ける心をもった人でした。しかし、いつも助けてあげていた人に、畑をだまし取られてしまいました。何とか取り戻そうとしたようですが、結局取り戻すことはできませんでした。

でも、悪いことはできないものですね。畑をだまし取った人は今は痴ほう状態になってしまったそうです。神仏は見ているのだと私は、思っています。

丈夫だった父は96歳で静かに亡くなりました。相手への思いやりの心をもって行動すべきだと思いました。

投書2

家族の気持ちをわかってほしい

この前、投稿欄に掲載されたすずらんさん。

あなたのお父様を裏切って、畑をだまし取った方を私も許せない気持ちで読んでいました。でも、悪いことをしたから痴ほうになったとの言い回し、神仏は見ているんだと…。私はそうは思いたくはないのです。

なぜなら、私の父も何年前に痴ほうになり、昨年亡くなりました。人にだまされても、だますことのない人生を送った人でした。私は父のことがあってから痴ほうの方を何人も知りました。悪いことをしたから痴ほうになったという考えには共鳴できません。痴ほうになってしまった病人を一生懸命に介護されている家族の方も大勢います。その方たちの気持ちもわかってほしいと思いました。

※参考：長野市民新聞「読者の投書・聞いてください」

